

COMETS NEWS

コメッツニュース

発行：東京コメッツ野球クラブ
編集：鍋倉 敏

事務局：吉田 亘孝

Tel&Fax 03(5970)0788

●公式戦記録第40期勝敗表(第8戦まで)

順位	チーム	B	D	F	E	C	A	勝	負	分	勝率	得点	失点	打率	防御率
1	B	***	○●	○○	○○	○○		7	1	0	0.875	54	25	0.300	1.98
1	D	●○	***	○○	○○		○○	7	1	0	0.875	47	29	0.281	2.77
3	F	●●	●●	***		○●	○○	3	5	0	0.375	43	57	0.283	5.15
3	E	●●	●●		***	○○	○●	3	5	0	0.375	52	41	0.241	3.29
3	C	●●		●○	●●	***	○○	3	5	0	0.375	35	59	0.233	5.43
6	A		●●	●●	●○	●●	***	1	7	0	0.125	48	69	0.284	7.20

●新入会員のご紹介

①石井 公明(いしい まさあき)さん 昭和22年6月19日生(65歳) 横浜市旭区在住

所属Bチーム 背番号70

②海江田 眞穂(かいえだ まお)さん 昭和27年10月6日生(60歳) 東京都品川区在住

所属Dチーム 背番号39

●会員異動

① 半田 英彦さん(F、6) 正会員より休会となりました。

② 山本 久夫さん(シルバー、26) 休会よりシルバーに復帰しました。

③ 須田 一則さん(F、18) 休会より正会員に復帰しました。

●40周年記念誌に関するお知らせ

①40周年記念誌掲載「会員コメント」の最終提出依頼

コメント内容・・・「コメッツに対する思い、要望、将来性」、「野球を通じた過去の出来事・考え方」など、

提出方法・・・メールアドレス：top-net@gol.com

ファックス番号：04-7159-6526 広報担当鍋倉まで

郵送先：〒270-0163 千葉県流山市南流山7丁目24-5 鍋倉 敏 宛て

最終提出期限・・・平成25年7月22日(月) 必着

● 全日本生涯野球大会の御礼及びご報告

6月1日(土)～2日(日)、会員の皆様の会費より申込金及び補助金を頂いて長野県上田市で開催された全日本生涯野球大会に参加し、2日間3試合を思う存分野球を楽しんでまいりました。ご支援ありがとうございました。

【参加者(背番号順、敬称略)】

嶋村(C、10)、関(A、14)、石井(E、19)、田村(C、23)、近藤(F、26)、星野(D、29)、植竹(E、37)、鍋倉(C、43)、中村(康)(D、55)、大島(C、77)、長濱(A、95)、安見(A、98)、小林(恵)(OB)、嶋村夫人、関夫人、計15名

【試合結果】

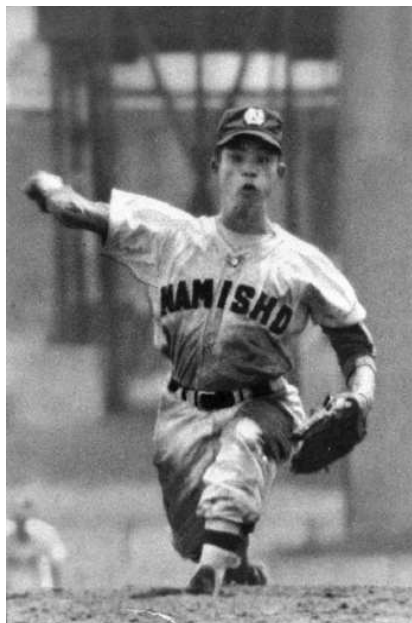
第1試合	オール塩田(長野)	11	×	7	東京コメッツ
第2試合	東京コメッツ	0	×	4	惣社(長野)
第3試合	東京コメッツ	10	×	11	x 深雪野壮年野球団(長野)

【所感】

参加者の協力により、ケガ無く、楽しい対外試合三試合を予定通り、実施できたことを感謝致します。出発前から投手不足が課題のまま大会を迎えましたが、投手面では、関さんをはじめ植竹さん、嶋村さんの奮闘によりナイスゲームばかりでした。打撃面では、第2試合は相手チームの投手が格上のような感じでしたが、第1試合、第3試合は相手チームに劣らず得点を重ね、繋がりのある粘り強い試合がコメッツらしく？出来ました。

来年は、さらに参加者を募り対外試合の楽しさを分かち合いたいと思います。

● 豪速球「甲子園最高の投手」～「怪童」尾崎行雄さん死去～



浪商時代の尾崎さん

東京コメッツ記念誌の寄稿や総会に何度もご出席頂きました尾崎行雄さんが、肺がんのためご逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

尾崎さんの経歴をご紹介します。

大阪・浪商(現大体大浪商)高のエースとして夏の甲子園で優勝し、プロ野球東映(現日本ハム)でも活躍した尾崎行雄さんが6月13日、68歳で死去した。「怪童」と呼ばれた豪速球投手を、「甲子園史上最高の投手」と語る関係者は多い。

1960年夏と61年春夏の甲子園で、浪は法政二(神奈川)と3季続けて直接対決している。最初の2度は法政二が勝って、そのまま優勝。61年夏は準決勝で雪辱した浪商が頂点に立った。すべて尾崎さんと柴田勲さん(69)＝元巨人＝の投げ合いだった。

尾崎さんは身長175センチと大柄ではないが、胸板が厚く、握力が強かったという。「体全体にズシンと響ような豪速球の感触が忘れられない」とバッテリーを組んだ故・大塚弥寿男さん(元ロッテ)は話していた。「大学生や社会人の先輩が捕れない。ミットの上を通過して、そのままネットを直撃するんだ」

球速を測れば、155キロから160キロ近く出ていただろうと証言する人が多かった。

「スカウトの神様」と呼ばれた元広島の高木・木庭教(きにわさとし)さんも「甲子園ナンバー1は尾崎だね。重いボールなのに伸びがあった」と懐かしんでいた。

尾崎さんは全国制覇から約3ヵ月後、浪商に退学届を出して東映に電撃入団。2年で中退した17歳は翌62年、20勝をあげて東映の初優勝に貢献した。64～66年は3年続けて20勝以上をマーク。65年には27勝で最多勝を獲得した。現役晩年は酷使による肩痛に悩まされ、29歳で引退した。都内で飲食店経営などをする傍ら少年野球の指導をした。お盆の時期には大阪に帰省し、よく甲子園にも立ち寄った。(新聞記事より)

●投稿文のご紹介

OB だより⑤

2013年6月1日 小林 恵一

皆さん！お元気ですか。公式戦も佳境に入り、ご活躍のことと思います。梅雨になりますが体調管理に留意して頑張ってください。

① 「長嶋茂雄語録」(河出文庫 小林信也編 693円)

本書はオビに“祝・国民栄誉賞”と書かれているが、'83年4月に単行本として刊行され、文庫化されたものである。

② 「巨人軍V9を成し遂げた男」(WAC刊 羽佐間正雄著 1470円)

打撃の神様「川上哲治」は監督としても神様となったのか。選手時代は個人成績にこだわり、監督となればチームに管理野球を強いた。しかし、前人未到の大記録によりすべては許された…のか？

③ 「日本プロ野球改造論」(ディスカバー21刊 並木祐太著 1050円)

ビジネスコンサルタントとして、プロ野球界にかかわってきた著者が、プロ野球の徹底改造論を提案し、日本産業の再浮上のための大きなヒントを与える。

④ 「LAST BALL」(光文社刊 川中大樹著 1575円)

元高校球児でスポーツライターの島野は、取材中に預かった日記を奪われてしまう。それは当時不審死を遂げたライバル校の選手がつけていたものだった。島野は調査を始める。

●別紙添付

① 公式戦日程表【改訂版：25年6月23日付】

② 5月 5日第6戦スコア

③ 5月19日第7戦スコア

④ 5月26日第8戦スコア

以上